



一服の
文解
ありし
ありし
ありし
ありし
ありし

を扱めたり。京都住入店の開設に關しては旧記
商賣記に詳述する所あり當時の情景、筆と目賭
する可如きものあるを以て茲にその一節を録
すの儘掲ぐる。

宗生は賣物仕入京都へ登り、棟中候時、
年十九歳、京都空町樂師町東側北寄りに間口
九尺の店宿代、年貳百目、見世小見世は
一、小間の切疊、見世、四五疊、敷居間、六疊、臺所、
置其外明地、手代男、居申、又主人分の居申
臺所の上三階、七八疊、敷壹間、天井なし、屋根、

有文ノ
マ
掲
クル
コト

裏の明地に、手藏の伏して、十六石入の大酒桶
を埋め、火用心の為、蔵代りに用ひ、京都には宗
壽衛、本宗利十五歳にて、京都若出候、勢州より
登り申候、其節、手代、練物、や利兵衛、弟吉石、衛門
撰、系買善右衛門、市郎右衛門、年十七八にて、除物
や使、其外手代、壹人、子供、貳人、男、壹人、尤草履取と
申す、其宗壽、始無之、仔供、又は壹人の男、餘と供
に奉り候事、此處の場合、

幾くならずして、商勢隆々として、昂り、現金懸値
なし、切賣の新案は、頭に世上の聲譽を博し、事業

三上參次博士と校閱の筆跡

口 絵 三上参次博士と校閲の筆跡

上 三上参次博士 東京帝国大学文学部部长の頃（大正一〇年頃）（『東京帝国大学五十年史』下冊より）

下 三上博士の校閲の筆跡（「宗竺三居士行状」原稿）

三上博士は東京帝国大学教授として、明治・大正・昭和における我が国歴史学界の泰斗である。東京帝国大学の史料編纂所の創設、大日本史料、大日本古文書の刊行を始められた。また明治天皇御紀二百六十巻の編纂を主催し、これを完結された。更に公刊明治天皇紀の編纂委員長をされるなどの功労者である。

男爵三井高棟同族会議長の要請に応じ、三上博士は明治三十六年（一九〇三）より、三井家家史の編纂事業に協力し、顧問として資料の蒐集、三井文庫の整備・充実に努め、「稿本三井家史料」の刊行及び三井事業史の稿本の作成に生涯をかけて指導された方である。

なお詳細は本号「三上参次博士と三井文庫」を参照されたい。

（中田易直）